

蘇州の古い職業(3)

●評弾 (ピンダン) 評弾とは蘇州独特の歌の入った講談のような芸能で、普通は男性と女性の二人組みで、男性が弦楽器を弾き女性は琵琶を弾きます。語ったり歌ったりしながら二人でいろいろな役柄を演じるのですが、すべて蘇州の方言を用います。あなたは柔らかな音を持つ姑蘇(蘇州市の古称)の言葉をゆっくり聞きながら、蘇州の美しさを味わうことができるでしょう。一杯の碧螺春(ビールオチュン)茶(中国の名茶)と一曲の語りのまくら(語りのひとくさり)は、蘇州人にとってはなんとも心地のよい、悠々自適の境地を味わえるものなのです。

評弾 是苏州独有的一门说唱艺术，一般情况是男女双档，男的弹弦，女的弹琵琶。有说有唱，两人可扮演众多角色，都是苏州方言。吴侬软语，你慢慢地去品，你定能品出姑苏风韵来。一杯碧螺春茶，一曲弹词开篇(评弹里的唱段)，在苏州人看来，“胜似活神仙”。



●質屋 質草を持って質屋に行きお金を借りるのは、普通は急ぎの金を必要とする人か、親不孝な子や孫が家の貴重品を盗んでお金を借りるかです。質屋の店主は「物を見て金額を決める」のですが、いろいろな物にかなり精通していてまさに「好角色①」で、骨董や書や絵画、金銀のネックレスなどについて知らないものはありません。

①好角色……角色とは演劇や映画の役柄という意味で、好角色とは様々なことに精通している才能を持って人を指す。

當舖店 去當舖店拿着家当去当钱的，一般都是急需用钱的人，也有不孝子孙拿家里的宝贝偷出来当钱用的。典当里的掌柜“看货压价”，几乎对样样物品比较精通，是个“好角色”，古董、书画、金银首饰无一不精。

●輿（こし）担ぎ　輿も一種の交通機関として利用できる手段で、昔の蘇州の生活には比較的合っていました。橋にくと輿を持ち上げるのに支障がないからです。この交通手段はかなり贅沢なものです。というのは、少なくとも二人の担ぎ手がないと動かせず、人の力が必要だからです。「里帰り」「過三橋（グオサンチアオ）①」「嫁入り」といった蘇州の多くの民間風習は輿がなくては成り立ちませんでした。

①過三橋……元宵節（小正月）に女性たちが三本の橋を渡って帰ってくると無病息災でいられるという、古代の伝承に基づく民間風習。

抬轿子　轿子也可作为一种交通工具，在老苏州比较适合，碰到桥抬轿子也无妨，这种工具比较奢侈了，因为起码两个轿夫才能行走，纯粹的人力活。苏州的不少民风民俗里离不开它，“回娘家”、“过三桥”、“娶亲”等。



●菱（ひし）の実採り　9月初めに菱の実を採ります。この季節は赤い菱の実を採る時期で、蘇州の田舎では水面に多くあります。菱は自生する水生植物で、水面に実をつけます。このため、蘇州の人は一人だけが座れる特注の木桶をつくり、水の上に漂いながら赤い菱を摘み採ります（普通の人が座ったら船がひっくり返ってしまうかもしれません）。菱の実は生で食べることもできますし、煮て食べることもできます。

采红菱　九月初，采红菱，这个季节是吃红菱的时候，苏州乡下水面多，红菱都是自然生长在水面上的植物，为此，苏州人特意制造一种木制菱桶，只一人可坐在其内，飘浮在水面上，采摘红菱（一般人坐上去就会翻船的）。红菱可生吃，也可煮熟了吃。

●刺繡 「四大刺繡」と呼ばれているものの中の 하나가蘇繡（蘇州の刺繡）です。我が国や世界各国にはそれぞれ特有の刺繡が持つ地位がありますが、蘇繡は古都の蘇州に欠くことのできない一つの要素となっています。何代にもわたって続いてきた刺繡をする女性たちの勤勉な汗を通して、蘇繡はしだいにその魅力を増してきました。その特徴は表現力が豊かで、繊細で真に迫り、刺し方の種類が多いということです。一本の絹糸は器用な女性の手の中で毛羽立つことなく刺されていき、その緻密さは肉眼でさえ見分けることができないほどです。さらに素晴らしいのは一つの作品で表裏の異なる面を刺繡することができるということです。まさに「一方水土養一方人（一地方の環境がその地方の人間を育てる）」で、“一方人”做“一方事”（現地で資材を調達し、現地の潜在力を十分に発揮させる）」ということになるのでしょうか。

刺繡 四大刺繡之一的“苏绣”，在我国乃至国际都具有它独特的地位，成为古城苏州不可缺少的一个元素。通过一代又一代的姑苏绣女的辛勤汗水，苏绣越来越具有它的魅力。它的特点是表现力强，细腻逼真、针法很多，一根丝线在灵巧的绣女手里可辟出若干根支线，细得甚至连肉眼都一时看不见，更绝的是一幅作品，可绣出正反不同的画面，正是一方水土养一方人，“一方人”做“一方事”。

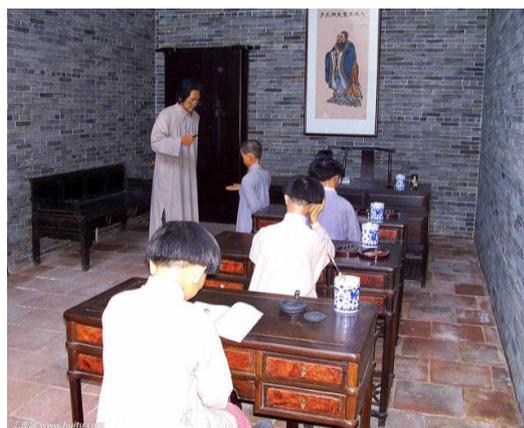


●雑貨行商 貨郎担(フオランダン)は実際には現在の小さな百貨店のようなもので、種々雑多な、ちょっとした小間物が商品になっています。子供の食べものや玩具、大人が使うものもあり、また流行りのものがすべて貸郎担によって人々の目の前にやってきました。「売貨郎」は現代用語で言えば「トレーダーtrader」というところでしょうか。

貨郎担 “货郎担”实质上如同现在的小百货商店，商品多，且杂，以小玩意为主。小孩子吃的玩的，大人们用的，还有再时尚的东西都是通过货郎担最早到达人们眼前。“卖货郎”用现在的话说就是“做贸易的人”。

●茶館 茶館にまつわるストーリーは多いです。以前は時事や政治に関するニュースや巷の話を聞きたいと思ったら、茶館に行かなければなりませんでした。急須一つにお茶を入れて一日いて、いろいろなニュースやうわさ話を聞くことができました。大は国家についてから小は近所のうわさ話まで、茶館では話されないものはないほど、あらゆるものが話されました。店の主人の中には自分の身に火の粉がかからないように、思い切って壁に注意書き……「国事を話すことなかれ」という警告文を貼る者もいました。

茶馆店 茶馆店里故事多。以往要想听到再新的时政要闻及小道小息那就得去茶馆店，你泡上一壶茶可呆上一天，各种新闻传言都能听到。大到国家大事，小到西家媳妇抛眯眼。这里有说不完的话，道不尽的言。有的老板为了不“引火烧身”，干脆在墙上贴上一张警告提示——“莫谈国事”。



●塾の先生 裕福な家庭の子供は教育を受けますが、一般には先生に家に来てもらって教えてもらっていました。ある家ではいっしょに勉強する者たちがいました。現在の補習をするような家庭教師とは同じではありません。自分で学校を開いている私塾の先生もいました。生徒が多くなったところでは、今のことばで言えば「グレードが低くなる」こともありました。

私塾先生 有钱人家的小孩接受教育，一般都请先生到家里教书，有的人家还有伴读的，与现在的家教是不同的，家教实际上就是补课。也有的私塾先生开设学堂的。学堂里的学生就多了，用现在的话说“档次就低了”。

●竹職人 竹を編むのは編物業の一種で、草編みや藤編みがあります。竹編みは竹の細長い形に裂き、各種の日常用具に編むのです。かつてはどの家にもあったもので、たとえば竹籃（取手の付いたかご、物の上にかぶせるふせご）、竹籬、竹筐（四角い箱型のかご）などで、それらは丈夫で長持ちして安価でした。

竹編 竹编是编织业中一种，还有草编、藤编等。竹编就是用竹子劈成长条、细条来编成各种日常用具，那时代家家户户都离不开它的，如竹篮、竹箩、竹筐，它坚固耐用，价格低廉。



●白蘭売り 「白蘭売り」は多くは蘇州の田舎の娘さんたちで、路地の奥から響いて来るしっとりして甘い調子の「白蘭はいらんかねー」という売り声を聞くと、あなたは白蘭を買わずにはいられなくなるでしょう。この「白蘭花一」という売り声で白蘭がさらに清々しくなり、女性は胸元の飾りに、男性は耳に挟みたいと思うからです。届いてくる香りは、まるで少女の売り声が醸し出しているようで、味わいが尽きません。

卖白兰花 “卖白兰花”多为苏州乡下小姑娘，“啊要卖白兰花……”，小巷深处时常传出又糯又甜的叫卖声，你听了这声音不买白兰花为之可惜，因为这声音白兰花而变得那么清香，女的佩在胸前，男的嵌在耳夹里，闻到香味犹似少女动听叫卖声响起，回味无穷。

